

第 ③ 章

父親のかかわり



1

父親のかかわりの現状

子どもの成長において父親のかかわりはとても重要である。本章では父親と子どものかかわりについての調査結果を見ていくことにする。父親のかかわりについては、育児や家事への関与といった直接的なかかわりと同時に、母親に対する育児への精神的サポートという視点からも調べてみた。具体的には、1. 育児への精神的サポート、2. 育児参加、3. 家事参加の3つである。1.の育児への精神的サポートとは、育児について母親から話を聞いたり相談にのったりするなど、精神的な側面から母親を支えるというかかわりである。2.の育児参加は実際に子どもと遊んだり、子どもを寝かしつけたりという具体的な育児行動としてのかかわりである。3.の家事参加とは、買い物や掃除など日常の家事におけるかかわりを示す。回答はすべて4段階評定でたずねた。なお全体の約97%は母親による回答で、父親自身の回答は1%であった。

精神的サポートでのかかわりは高く、家事参加が最も低い(図3-1~3)

まず育児への精神的サポートについて見てみると(図3-1)、全体に母親の評価は高い傾向にあることが示されている。肯定的な(「とても+まあそう思う」と答えた)母親はどの項目でも50%以上になっており、特に「子どもの1日の様子を聞いてくれる」「育児の悩みの相談にのってくれる」「子育てに関する考え方に共感してくれる」など、話し合いや相談という面でのサポートが多いことがうかがえる。ただ、「育児生活上のストレス

発散ができるように配慮してくれる」については否定的な(「あまり+全然そう思わない」と答えた)母親も40%を超えており、ストレス発散につながるような具体的なサポートは少ない傾向が見られた。

次に育児参加の結果(図3-2)を見てみると、項目によってばらつきがあることが示されている。最も頻度が高かったのは「子どもを叱ったりほめたりする」で、40.4%の父親が「ほとんど毎日」、また「週に3~5回」を含めると63.1%となっている。父親は叱ったりほめたりというしつけの中で子どもと多くかかわっていることがうかがえる。しかし一方で、「週に1~2回+ほとんどない」も33.3%おり、しつけは母親まかせという父親の存在もうかがえる。

逆に最も頻度の低い項目は「子どもと一緒に外で遊ぶ」であった。やはり子どもと外で遊ぶのは、土・日などの休日を利用してという父親が多いようだ。また「室内で遊ぶ」では「週に3~5回」以上の父親が40.8%いる一方で、半数以上が「週に1~2回」以下になっており、これもかなりばらつきが見られる結果となった。また「子どもを寝かしつける」では「ほとんどない」と答えた父親が48.5%いた。もちろん帰宅する時間が遅い、家にいる時間が短いという理由もあろうが、「お風呂に入れる」「室内で遊ぶ」の結果と比べてもかなり低い数値である。父親が帰宅していても、寝かしつけるのは母親に任せている家庭が多いことがうかがえる。

図3-1 育児への精神的サポート（全体）

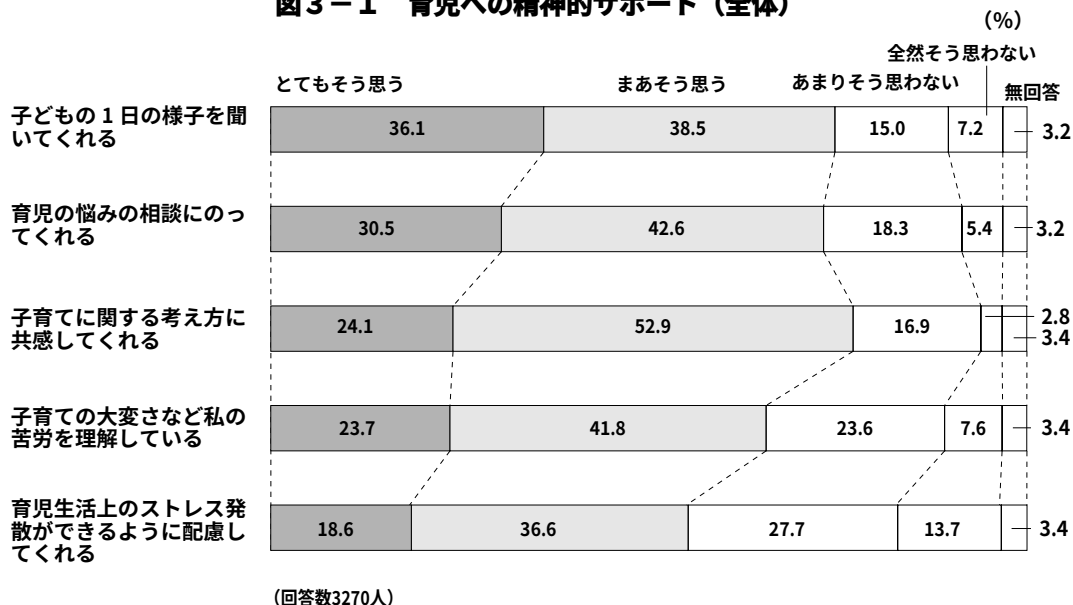
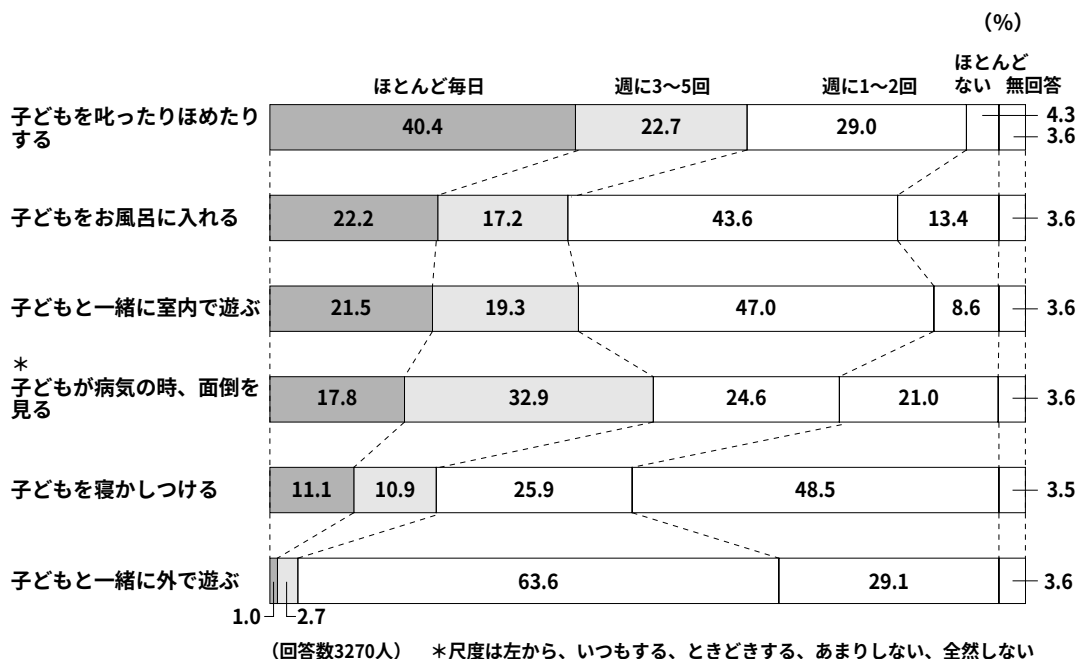


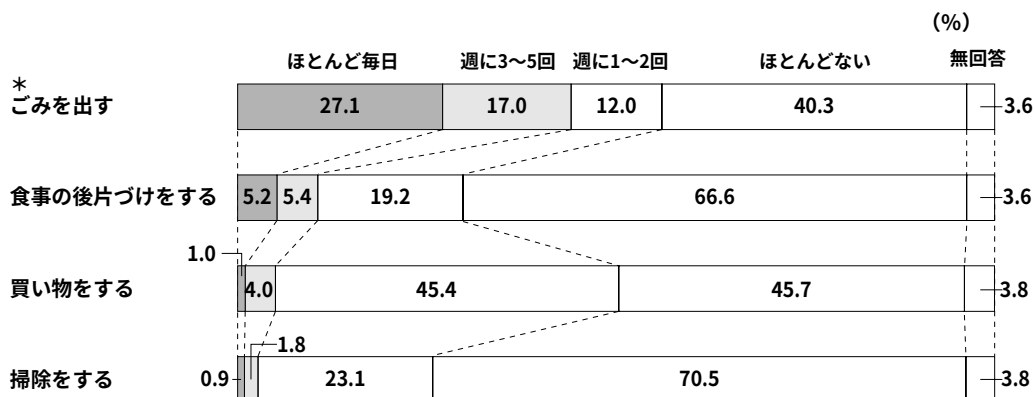
図3-2 育児参加（全体）



では家事参加はどうであろうか。図3-3を見ると、前述の精神的サポート、育児参加に比較して全体にかなり低い結果が示されている。父親にとって家事という領域は、子どもの育児や母親への精神的サポートに比べてかわりにくいものなのだろうか。最も頻度の低かったのは「掃除をする」であった。70.5%の父親が「ほとんどない」という状況が示されている。また「食事の後片づけをする」も66.6%の父親が「ほとんどない」とい

う結果であった。逆に最も頻度が高かったのは、「ごみを出す」である。これは「いつもする」という父親が27.1%で、「ときどきする」まで含めると44.1%になる。出勤前の力仕事としてごみ出しを行っている様子が見える。しかし「全然しない」という父親も40.3%存在している。また買い物も全体に低い、「週に1～2回」が半数近くという特徴が見られる。土・日は家族で買い物という家庭も多いのではないだろうか。

図3-3 家事参加（全体）



(回答数3270人) *尺度は左から、いつもする、ときどきする、あまりしない、全然しない

2

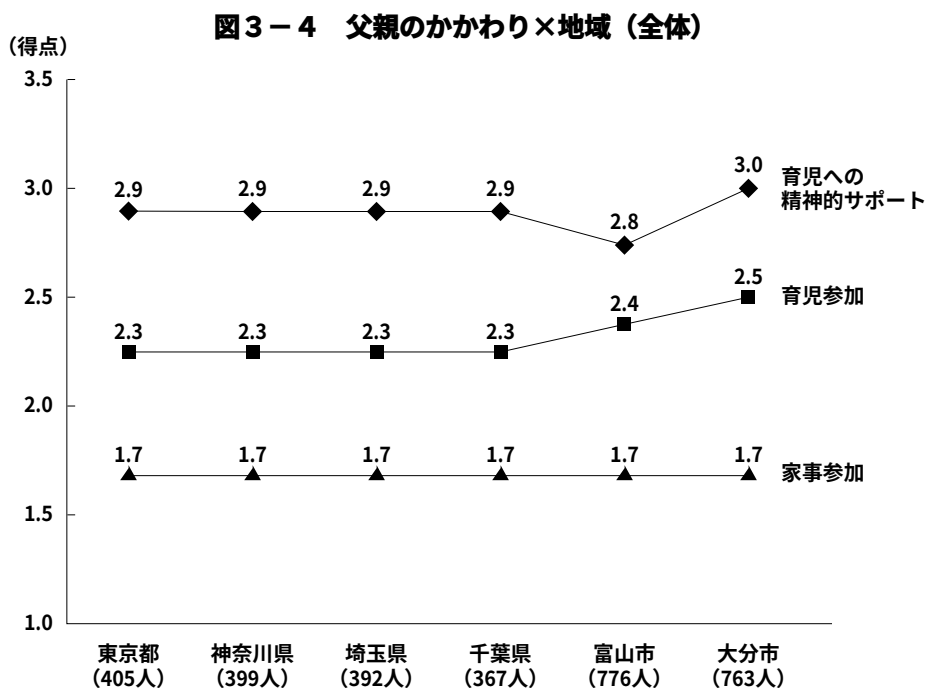
属性による父親のかかわりの比較

以上、育児への精神的サポート、育児参加、家事参加の3つの視点から父親のかかわりを各項目ごとに見てきたが、次に地域、子どもの年齢、母親の就業状況という属性の違いによる父親のかかわりについて見ていくことにしよう。

なおこれ以後、父親のかかわりについては各項目ごとに1点から4点までの得点化を行い、3つの各領域について平均得点を算出して結果を見ていく。

地域差はほとんどない（図3-4）

図3-4は父親のかかわりに地域的要因による違いが見られるかを検討した結果である。これを見ると、地域差はあまり大きくないことが示されている。特に家事参加ではどの地域も平均得点が同じである。また精神的サポート得点と育児参加得点において、大分市の父親が若干高めの結果を示しているものの、地域的な要因による差はそれほど大きくないと言ってよいだろう。



子どもの加齢に伴い、育児・家事へのかかわりは減少傾向に（図3-5）

次に子どもの年齢別に父親のかかわりを比較したのが図3-5である。まず年齢を問わず全体に共通した結果として、精神的サポートの得点が比較的高い傾向にある。また育児参加得点と家事参加得点では前者の方が高いことが指摘できる。

各領域ごとに見ると、まず精神的サポート得点は年齢によってほとんど変化がないことがわかる。それに対して育児・家事参加得点では子どもの加齢に伴い、得点が減少している傾向が見られる。これは統計的にも有意な結果になっており、特に育児参加得点では1歳、2歳、3歳と5歳、6歳との間に、家事参加得点では1歳と5歳、6歳の間に差があった。つまり子どもが大きくなるにつれて、父親の育児や家事へのかかわりが減少する傾向があると言えよう。

かかわりの多いフルタイム就労、少ないパートタイム就労（図3-6）

では母親の就業状況によって、父親のかかわりにどのような違いがあるのだろうか。その点を比較したのが図3-6である。これによれば精神的サポート、育児参加、家事参加いずれにおいてもフルタイム就労の世帯で、父親のかかわりが最も多いことが示されている。逆にパートタイム就労の母親の世帯では、父親のかかわりは3領域いずれにおいても低い得点を示している。現在仕事を持たない専業主婦と同様に父親の育児・家事参加得点が低い傾向が見られ、パートタイム就労の母親の、育児や家事への負担感が強いことを示唆する結果となっている。パートタイム就労には働き方に幅があるので一概には言えないが、仕事に加え、子育ても家事も母親がかなり担っているという現状がうかがえるのではないだろうか。

図3-5 父親のかかわり×年齢（全体）

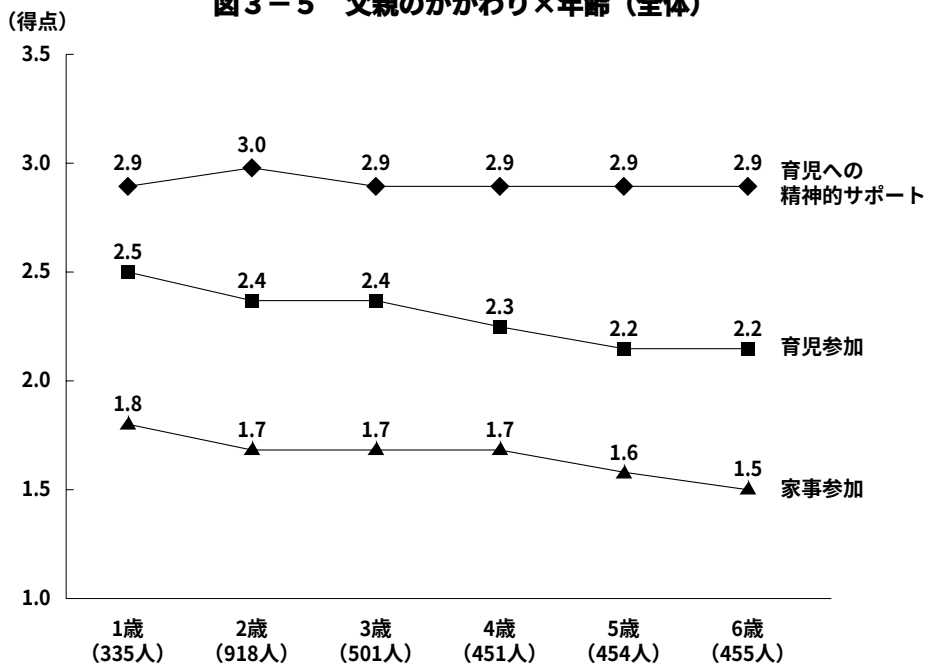
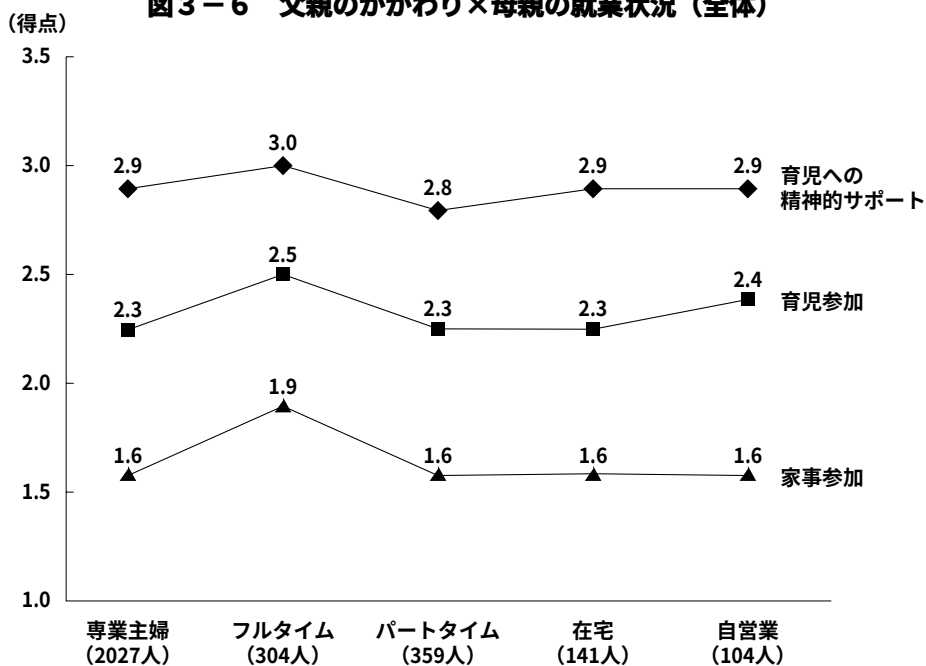


図3-6 父親のかかわり×母親の就業状況（全体）



3

父親のかかわりに対する希望

それでは前述のような父親のかかわりの現状について、母親はどのように思っているのだろうか。「あなたは父親に、育児にもっと参加してほしいと思いますか」「あなたは父親に、家事にもっと参加してほしいと思いますか」という質問に、「とてもそう思う」から「全然そう思わない」の4段階評定で母親に回答してもらった。その結果、以下のような結果が示された。

もっとかかわってほしい。特に育児に対して…(図3-7・8)

まず育児参加について見てみることにしよう。もっと育児にかかわってほしいと思うか、母親にたずねたところ、図3-7のような結果になった。まず全体では、77.8%の母親が「とても+まあそう思う」と答えており、父親のかかわりへの希望は非常に高いことが示された。さらに平均得点を境に、現在の育児参加度が高い群と低い群に分けて比較してみた。それによれば、現在の参加度が低い群では、37.5%の母親が「とてもそう思う」と答えており、父親にはもっと子どもとかかわってほしいという気持ちが強いことが示されている。それに対して、育児参加度の高い群では「とてもそう思う」と答えた母親が22.4%、「あまり+全然そう思わない」も25.0%いるなど、低い群に比べると父親に対する希望は

あまり高くなく、現状に対してやや満足度が高いことがうかがえる。

次に家事参加に対する希望では(図3-8)、全体の60%以上が「とてもそう思う」または「まあそう思う」と肯定的な回答をしている。また現在の参加度による比較では、現在の家事参加度が低い群の方が、母親はもっと父親に家事参加をしてほしいと思っている割合が若干多いが、育児参加の結果に比べると、その差はあまり大きくないことが示されている。

ここで育児参加に対する希望と家事参加に対する希望を比較してみると、全体に育児にもっと参加を望むという傾向が示されている。一方、図3-2および図3-3にもあったように、実際のかかわりにおいても父親は家事よりも育児の面でのかかわりが多くなっていた。現状に対する希望という意味では、よりかかわりの少ない家事に対して、強い希望が示されてもおかしくない。しかし、結果はそうではない。育児参加の方が、父親自身の現実のかかわりも多く、母親からの希望も強いということが示された。これは、家庭における父親の役割について、父母ともに、どちらかという子育ては父母双方で、家事は母親が…と考える傾向があるということを示しているのかもしれない。

図3-7 父親の育児参加への希望（全体）

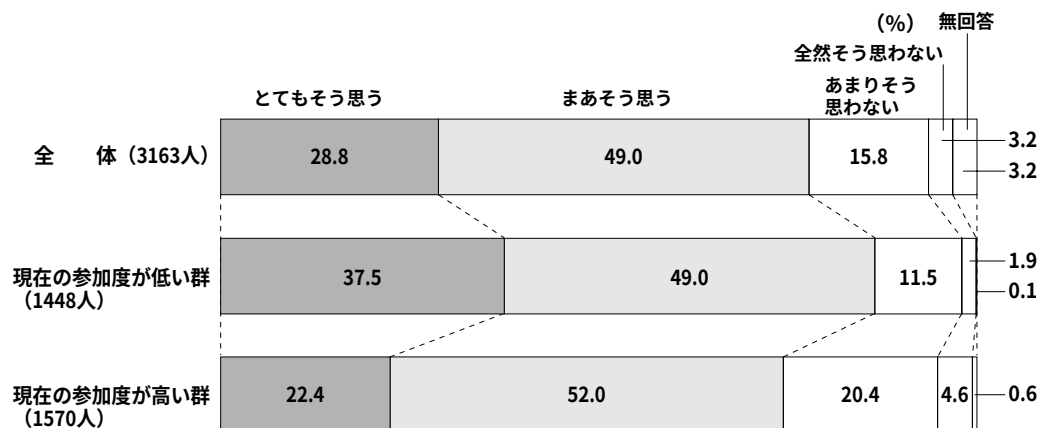
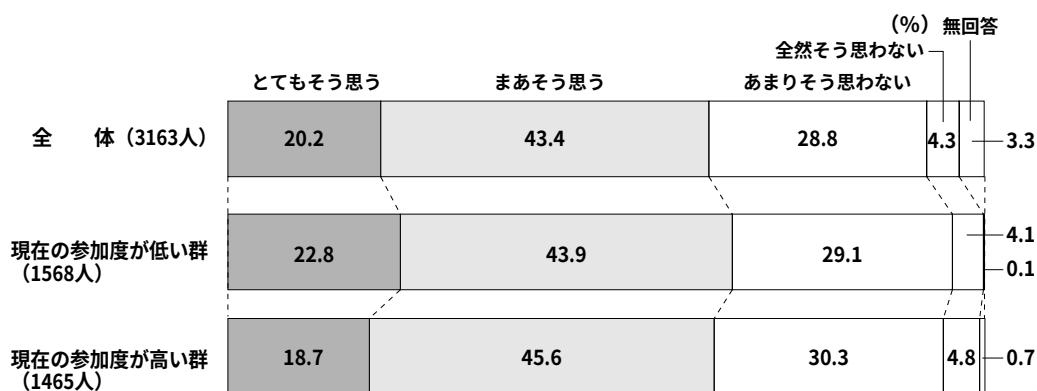


図3-8 父親の家事参加への希望（全体）



4

父親のかかわりと母親の育児不安

さて、前章の育児不安と父親のかかわりとの間には関係があるだろうか。父親のかかわりと母親の育児不安について考えてみたい。

父親のかかわりの高さは母親の育児不安を減少させる（図3-9）

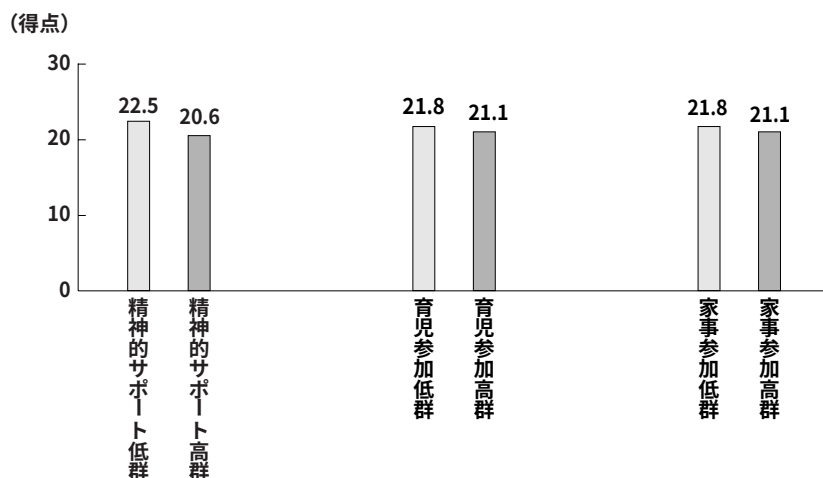
ここでは育児への肯定的な感情に関する5項目の得点を逆転させたものを、育児不安に関する5項目に加え、計10項目から広く育児不安として分析した。4段階評定からなるため合計は40点となり、得点の高さは育児不安の強さを示す。平均得点は21.4点だった。

精神的サポート、育児参加、家事参加の各領域について現在のかかわりが高い群と低い群に分け、その2群について育児不安得点を比較したのが図3-9である。

これを見ると、精神的サポート、育児参加、家事参加、いずれにおいても父親のかかわりが高い群の方が、母親の育児不安得点は低くなっており、統計的にも有意な差が見られた。特に精神的サポートではその差は大きいことがうかがえる。また子どもとは直接関係しない家事参加というかかわりでも、母親の育児不安の程度に違いが示されている。

これらのことから、父親のかかわりは子どもにとってのみならず、乳幼児を持つ母親にとっても意味があり、実際の行動面でのサポートと同時に、精神面でのサポートも重要であること、また行動面についても子どもとのかかわりだけではなく、家事参加など家庭全般のかかわりも意味があるということが言えるだろう。

図3-9 父親のかかわりと育児不安との関係（全体）



(回答数3121人)